

超音波ガイド下伝達麻酔で手術を受ける患者に行う 術前オリエンテーションの統一に向けた取り組み

キーワード 伝達麻酔、術前オリエンテーション

B棟4階 ○安井亮平 檜尾真実 中室まどか 松浦一

I. はじめに

A病院整形外科では、伝達麻酔下で手術を受ける患者に対し、パンフレットを用い、術前オリエンテーションを行っている。当病棟における先行研究^{1) 2)}にて、伝達麻酔を受ける患者が不安を感じているという結果が出ており、その不安の原因は患者への説明不足が理由であることが分かっている。今回、患者への説明不足を改善するためにパンフレットの改訂と病棟スタッフへの運用方法の説明を実施し、術前オリエンテーション内容の充実と説明内容の統一を図る取り組みを行った。

II. 目的

改訂したパンフレットを使用し、統一した術前オリエンテーションが可能か、また不足部分について明らかにする。

III. 方法

1. 対象：A病院整形外科病棟スタッフ 30名
2. 調査期間：平成30年11月13日～12月26日
3. 調査方法：パンフレットに先行研究の結果を基にパンフレットに下記の内容を追記、説明の順番などを改訂。
 - ・文字のフォント・行間・余白の変更
 - ・伝達麻酔の時系列に沿って記載
 - ・イラスト・実際の伝達麻酔施行時の写真追加
 - ・手術部位
 - ・絶飲食時間の記入欄追加

- ・弾性ストッキングの要・不要
- ・伝達麻酔実施場所
- ・伝達麻酔前後の移動
- ・マーキングについて
- ・伝達麻酔中のスタッフ
- ・麻酔所要時間
- ・麻酔中の体位
- ・麻酔の効果・持続時間・副作用
- ・術後の飲食について

パンフレット改訂後に、当病棟看護スタッフに対し、集団で説明日を設け、パンフレットを見せながら口頭で説明、説明日に参加できなかったスタッフに対しては個別に説明を実施、説明は1人1回のみとした。パンフレットの説明後、初回のみ患者へオリエンテーションをした看護師に、説明内容のチェックリストと内容に関するアンケートを配付しスタッフ自身に記入してもらった。チェックリストとアンケートは共に無記名記述とした。アンケート内容としては①部署経験年数、②文字のフォント・大きさ、③説明にかかった時間、④説明に要する時間について、⑤イラスト・写真の必要性、⑥説明順序が適切か、⑦内容の過不足があるか、⑧旧オリエンテーション用紙と比較し使用しやすくなったか、⑨患者からの質問とした。

4. 倫理的配慮

プライバシーを保護するためアンケート、チェックリストは無記名方式とした。期間中対象者に対して研究の目的と方法を口頭で説

明し、アンケートの提出により同意を得た。

IV. 結果

本研究対象者 30 名に対し、20 名（回収率 67%）のアンケート、チェックリストを回収できた。

アンケート結果は以下の通り。

①部署経験年数別として、1 年未満が 6 名、1 年以上 2 年未満 1 名、2 年以上 3 年未満 3 名、3 年以上 4 年未満 3 名、5 年以上 7 名であった。

②文字のフォントは大きい 0 名（0%）、適切 20 名（100%）、小さい 0 名（0%）であった。

③説明にかかった時間は、5 分未満 0 名（0%）、5 分以上 10 分未満 4 名（20%）、10 分以上 15 分未満 8 名（40%）、15 分以上 20 分未満 7 名（35%）、20 分以上 1 名（5%）であった。

④説明に要する時間については、長い 2 名（10%）、適切 18 名（90%）、短い 0 名（0%）であった。

⑤イラスト・写真の必要性は必要 19 名（95%）、不要 1 名（5%）であった。

⑥説明の順序が適切かは、適切 19 名（95%）、不適切 1 名（5%）であった。

⑦内容の過不足は、説明不要な部分あり 0 名（0%）、適切 19 名（95%）、内容に不足あり 1 名（5%）。

⑧旧オリエンテーション用紙と比較し使用しやすくなったか
思う 20 名（100%）、思わない 0 名（0%）。

⑨患者からの質問

- ・点滴はいつまで続くのか
- ・家族の来院時間について
- ・麻酔時の体位変換は自己でおこなわないといけないか
- ・針は何か所刺すか
- ・痛みはあるか
- ・手術時間はどれくらいか

チェックリストに関しては 13 名がすべて

の項目について説明行えており、7 名にいずれかの項目で説明できていない部分があった。

V. 考察

アンケートの結果により、提出者全員が旧アンケートに比べて使いやすくなっていると回答している。

イラスト・写真の必要性に対し、必要との回答が 95%であり、肯定的な意見がほとんどであった。田中らは「写真入りパンフレットを使用し、視覚的情報を提供する事は術後のイメージ作りに効果があった」¹⁾と述べている。写真を使用したことにより、言語的情報だけでなく、視覚的情報を取り入れることが出来た。伝達麻酔中のイメージを患者がしやすくなり、スタッフとしても説明しやすくなったと考えられる。

先行研究結果では、経験年数によって説明内容にばらつきがあったため、必要と考えられる部分を追加したことで今まで記載されていなかった部分の説明の統一はできたと考えられる。

抜けがあったチェックリストの内容、スタッフの経験年数にもバラつきがあり、統一したオリエンテーションを実施するというこちらの意図が伝わっていなかったと考察される。また、今回の研究に関しては初めてパンフレットを使用した結果のみであり、継続した使用が出来ておらず、研究者からスタッフへの説明も、スタッフから患者への説明も経験回数が少ない。中村らは「看護師の熟練の過程は、臨床経験を重ねるごとにその能力が構築されていくと期待される」²⁾と述べている。そのことから繰り返し指導や説明の経験を重ねることが重要であると考えられる。

VI. 結論

①パンフレットの内容の改訂をしたことで内容の不足はなくなり、スタッフが患者に対して伝達麻酔について説明しやすくなった。

②スタッフから患者への説明が抜けなく統

一したものになるよう、繰り返しスタッフへ指導行うことが重要である。

引用文献

- 1) 梅本美里, 柳本亜希:病棟で手術前伝達麻酔を行った患者への看護ケアの評価に関する研究, 奈良県立医科大学附属病院平成 27 年度看護研究抄録集, p. 9, 2015.
- 2) 北尾一樹, 金森智子, 古宮理沙:超音波ガイド下伝達麻酔で手術を受ける患者に行う術前オリエンテーションの実態調査, 奈良県立医科大学附属病院平成 29 年度看護研究抄録集, p. 21, 2017.
- 3) 田中陽加, 岸田安世, 山岡有希:術前オリエンテーションの実際—術後の状態がイメージできるパンフレットを使用して, 高知大学医学部附属病院看護部臨床看護研究集録, 11 号, p. 37-40, 2007.
- 4) 中村悦子, 金子史代, 清水みどり:看護師の患者指導の機能に関する研究, 新潟青陵大学紀要, 5 号, p. 359-370, 2005.

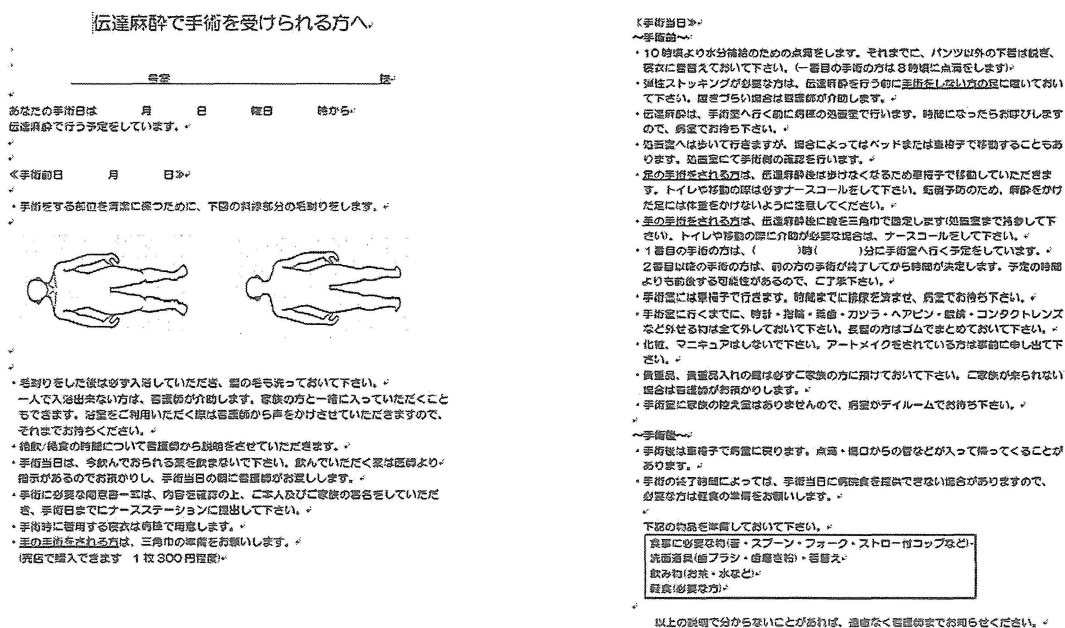


図 1, 2 修正前のパンフレット


足の伝達麻酔で手術を受けられる方へ

手術日時： 月 日 曜日 時 分 予定
 手術部位：()

※2回目以降の手術の方は、前の方の手術が終了してから時間が決定します。予定の時間よりも前送する可能性があるため、ご了承下さい。

＜手術前日 月 日＞

- 手術をする部位を清潔に保つために、手術部位周辺の毛剃りをします。
- 毛剃りをした後は必ず入浴していただき、翌の毛も洗っておいて下さい。
- 絶食/絶食については以下の通りです。


絶食：	月 日 曜日	時	
絶食：	月 日 曜日	時 分	

・手術当日は、今飲んでおられる薬を飲まないで下さい。飲んでいただく薬は選薬より指示があるのでお読みし、手術当日の朝に看護婦がお渡しします。

- 手術に必要な同意書一式は、内容を確認の上、ご本人及びご家族の署名をさせていただきます。手術日までにアースステーションに提出して下さい。
- 弾性ストッキング：(不要 ・ 購入)です。
- ※弾性ストッキングは売店で購入できます 弾性ストッキング1組 1620円

・下記の物品を準備しておいて下さい。

食事に必要な物(箸・スプーン・フォーク・ストロー付コップなど)
 洗面道具(歯ブラシ・歯磨き粉)・歯磨乳
 飲み物(お茶・水など)・喫食が必要な方



＜手術当日＞
 伝達麻酔部
 実施場所：B棟4階 整形外科手術 処置室



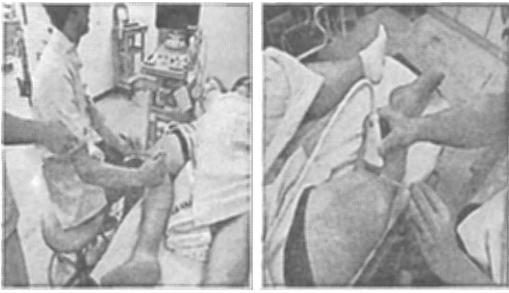
- ・麻酔開始前にトイレを済ませておいて下さい。
- ・麻酔開始前に水分補給のための点滴をします。
- ・点滴開始前まではパンツ以外の下着は脱ぎ、お着した保衣に着替えて下さい。
- ・弾性ストッキングが必要な方は、手術と反対側の足に履いて下さい。履きづらい場合は看護婦が紹介します。
- ・処置室へは歩いて行きます。場合によってはベッドまたは車椅子で移動することもあります。
- ・処置室で手術部位に間違いがないか確認し印を付けます。



- 伝達麻酔中
- ・伝達麻酔は医師と看護婦で実施します。
 - ・麻酔所要時間：20～40分
 - ・ストレッチャーの上で寝になり、エコーを使用し麻酔を行います。
 - ・まず横を向いてもらい、腰の外側にある神経をエコーで確認し、針を刺して麻酔をします。
 - ・次に仰向けになり、がに股をしてもらい、腰の内側の神経を確認し麻酔を行います。
 - ・麻酔開始後から徐々に、針を刺した部位から足の先にかけてしびれや動かしにくさが出てきますが麻酔が効いている証拠です。
 - ・麻酔の持続時間：個人差がありますが半日以上持続します。
 - ・麻酔前後で血圧測定を行います。
 - ・伝達麻酔副作用：麻酔後30分～60分までめまい、耳鳴り、口唇のしびれが出現する可能性があります。
- 上記症状があれば看護婦に知らせてください。



- 伝達麻酔後
- ・麻酔をした足には体温がかけられず歩けなくなるため車椅子で移動していただきます。また点滴もあるため、転倒予防のためにも移動の際には必ずアースコールをして下さい。
 - ・手術室には車椅子で行きます。時刻までに排泄を済ませ、病室でお待た下さい。
 - ・手術室に行くまでに、時計・指輪・髪髻・カッター・ヘアピン・眼鏡・コンタクトレンズ 財布など外せる物は全て外しておいて下さい。長髪の方はゴムでまとめておいて下さい。
 - ・化粧、マニキュアはしないで下さい。アートメイクをされている方は事前に申し出て下さい。
 - ・貴重品、貴重品入れの鍵は必ずご家族の方に預けておいて下さい。ご家族が来られない場合は看護婦がお預かりします。
 - ・手術室に家族の控え室はありませんので、病室がテイルームでお待た下さい。



- ～手術後～
- ・手術後は車椅子で病室に戻ります。傷口からの音などが入って帰ってくる場合があります。
 - ・術後問題なければトイレ時は車椅子可能となります。
 - ・術後、原則身体に問題なければ飲食可能です。手術の終了時間によっては、手術当日に病室食を提供できない場合がありますので、必要な方は軽食の準備をお願いします。

以上の説明で分からないことがあれば、
 遠慮なく看護婦までお知らせください。

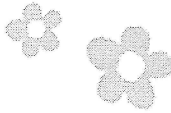


図3, 4, 5, 6, 修正後のパンフレット (足疾患用)